

かし和



平成24年9月

<第6号>

柏市立柏病院

【住所】 柏市布施 1-3

【電話】 04-7134-2000

残暑見舞い

暑い夏でした。みなさん、うまく乗り切ることができたでしょうか。そんな真夏に、病棟の一部でエアコンが効かず、入院されている方には部屋替えなどで大変御迷惑をおかけしました。申し訳ありません。建物内の配管に問題を生じており、建って30年も過ぎるといろいろ不具合が出てくるようです。根本的な改築等ができるまで、不具合な箇所についてはその都度迅速に対応してまいりますので、御理解のほどお願いいたします。



病院長 野坂 俊壽

顔 連載インタビュー 第3回

今回は、副院長 **亀谷 寛** 先生です。

Q 先生のご出身は？ ▶高校1年までは長野県の松本にいました。偶然ですが、酒井先生の高校1年後輩になります。そのあと富山県に引っ越しました。

Q 子供のころはどんな子でしたか？ ▶おとなしい、元気のない子供でした。外に出たがらないので、親には「もっと外で遊びなさい。」と言われることが多かったです。部屋の中で本を読んだりするのが好きでした。

Q 医師になろうと思ったのは？ ▶私が中学3年の時に母親が病気になり、翌年死亡しました。今みたいにインターネットがあるわけではないので、ごく当たり前の症状や病気のことが全く解りませんでした。身内に医療関係者がいなかったので尚更でした。「病気のことを知りたい」と思ったのが医師を目指したきっかけでしょう。

Q 大学に入って、東京に来てどうでしたか？ ▶大学4年の時に、父が横浜へ転勤になりました。小さな家で二人暮らしをしていましたから、東京に出てきたという感じは余りありませんでした。特に研修医の時には、地方出身の医師ばかりだったので、私が一番の「東京通」だったくらいです。

Q 当院に着任したころの様子？ ▶医師会の先生方が多くの患者さんを御紹介くださって、いろいろな病気を診る事が出来ました。それまで勤務していた都立病院などはそういう環境ではありませんでしたから、オープンな良い病院だなと思いました。

亀谷 寛 (かめたに ひろし)

副院長・診療協力部門長
神経内科医師

プロフィール

長野県生まれ。東京医科歯科大学神経内科入局。平成10年当院着任。平成19年副院長(診療協力部門長兼務)に就任。多くの患者さんを受け持ち、精力的に診療をしている。外来診察の曜日は、水曜日と金曜日。



Q 神経内科の医師になって、良かったなあと思ったことは？

▶他の先生方に怒られてしましますが、神経内科は決して特殊な科ではありません。細かく病歴をとって、しっかり診察をするという「内科の基本」がつかまっている科だと思います。その中で、患者さん御自身も今まで気づかなかった症状を探り出したり、MRIなどの検査で分からない所見を拾い上げたり、それらの所見を積み上げて診断をしていくところに面白さがあると思います。

Q 休みはどんなことをして過ごしていますか？ ▶4年ぐらい前から犬(ウエスト・ハイランド・ホワイトテリア)を飼い始め、休みの日には何度も散歩に行きます。少なくとも1日3回ぐらいは。足元にくっついて離れないので可愛いです。散歩だけで休日は終わってしまいます。考えてみれば、ここ数年何処にも出かけていないですね。

Q 先生の健康法は？ ▶とりあえず、救急車で担ぎこまれないように気をつけています(笑)。自分の病院に担ぎ込まれたら大変ですからね。その為に少しは節制をしています。そのくらいです。医師は時間的な制約が大きくて、自分の健康は守れないですね。

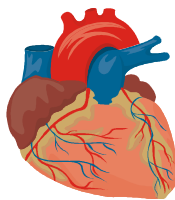
Q 診療協力部(コメディカル)に対して ▶専門性だと思います。良く言われるように、医師、特に内科医は指揮者でしかありません。それぞれの楽器は診療協力部の皆さんが演奏してくださって、初めてオーケストラになります。診療協力部(コメディカル)が専門性を発揮して演奏してくださらなければ、高度の演奏は出来ません。

Q 患者さんへ一言お願いします。 ▶御自分の体は大事にしましょう。健康管理は御自分でなければ出来ません。私たちは出来る限りのお手伝いはさせていただきますが、皆様方の長い人生から見たら、ほんの短い時間しか御一緒できません。



『狭心症・心筋梗塞』

<循環器内科>



今回は、よく耳にされることが多いと思われる心臓の病気、『狭心症・心筋梗塞』について、当院の循環器内科の医師にお話を聞きました。



今回ご協力いただいた
循環器内科の医師を御紹介します！

Q. 『狭心症・心筋梗塞』という病気について、分かりやすく説明をお願いします。

A. 心臓を栄養する血管を冠動脈といいます。冠動脈が狭くなり、心臓の筋肉にとって必要な血液の量を下回り、症状が出てくることを狭心症といいます。狭心症は労作性狭心症と異型狭心症とに区別されますが、主に**労作性狭心症**について説明します。

<労作性狭心症>

冠動脈の動脈硬化により血液の供給量が減り、心臓の筋肉の血液の需要が高まることで症状が出現します。症状について、3つの重要なポイントがあります。

① 症状の場所と性状

狭心症の最も典型的な自覚症状は、胸の骨から左ろっ骨付近の圧迫感です。圧迫感とはぐっと差し込まれるような、押し付けられているような苦しさを指します。胸のあたりがチクチクする痛みを感じる人もいれば、胸やけや息切れをきっかけに気づく人もいます。

② 労作と症状との関係

労作とは歩行や階段昇降程度の動作のことです。いつも散歩していたところなのにすぐに息が切れる、他の人と歩いていると疲れてしまっていていけない、坂道や駅の階段で思った以上に疲れる、などの症状がよく聞かれます。息切れは年のせいと思われがちですが、労作時の息切れが1年前や半年前と比較して明らかに悪くなっている場合は、病気によるものを疑います。ただし息切れは狭心症以外にも肺の病気の可能性もあるため、狭心症が確実にあるとは言い切れません。

③ 症状の起こり方と持続時間

労作時に徐々に上記のような症状が出現し、時間にして数分から十数分持続し、その後完全に消失することがほとんどです。同様の労作を行うと概ね症状が出現することが特徴です。症状が一瞬であったり、数秒程度の症状の場合、狭心症とは異なる印象を持ちます。

<心筋梗塞>

冠動脈が閉塞することで供給が途絶し、心臓の筋肉が壊死を起こします。狭心症の場合、いずれ症状は消失しますが、心筋梗塞の場合通常は強い胸痛、冷や汗などが30分以上持続し、改善しません。

Q. どのような検査をしたら、診断できますか？

A. **心電図**、**心臓の超音波検査**が最も苦痛の少ない検査となります。**採血**では狭心症のリスクを評価しますが、糖尿病、悪玉コレステロール、腎機能などもチェックする必要があります。労作での症状を評価するため、**運動負荷試験**を行ったり、当院では患者さんにも見て簡単にわかる**冠動脈CT**を行ったりしています。これら検査で労作性狭心症が疑わしい場合、**カテーテル検査**で冠動脈造影を行う必要があります。異型狭心症の場合、薬物負荷試験を併用したカテーテル検査を行うこともあります。

Q. 治療法を教えてください。

<内服治療>

血液サラサラの薬(バイアスピリン)、動脈硬化を抑えるための薬(スタチン)などです。禁煙も立派な治療のひとつです。

<手術(冠動脈バイパス術)>

先日天皇陛下も受けられた手術で、ご存知の方も多いかもかもしれません。狭くなった場所を迂回するように、自分の動脈、静脈を使ってバイパス路をつくる手術です。

<カテーテル治療(冠動脈ステント留置術)>

松山千春、渡辺徹などの著名人もカテーテル治療を受けています。当院では主に手首の動脈からカテーテルを挿入し、狭くなった冠動脈にステントという形状記憶の金属を挿入し、拡張して留置を行っています。手技時間は1~2時間程度で、手首からの場合、術後すぐに歩くことができます。

冠動脈CT検査のご案内

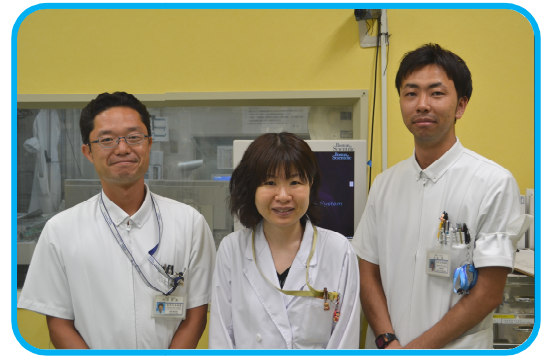
15秒間のしっかりとした息止めが大事になりますが、他の部位の造影CT検査とほとんど変わらない検査です。詳しくは主治医の先生にご相談ください。



部門紹介

『ME室』

(Medical Engineer)



ME室のご紹介

臨床工学技士(ME)ってみなさんご存知ですか？

臨床工学技士は、1987年5月に制定された「臨床工学技士法」に基づく医学と工学の両面を兼ね備えた国家資格です。現在当院では、3名の臨床工学技士が医師・看護師や各種の医療技術者とチームを組んで、生命維持装置の操作などを担当しています。また、医療機器がいつでも安心して使用できるように保守・点検を行っており、安全性確保と有効性維持に貢献しています。



ME室ではこのような仕事をしています！

心臓カテーテル検査

患者さんの心電図モニターを監視し、異常の早期発見に努めています。また、心臓を養う冠状動脈の狭窄の度合を検査および客観的に観察する機器の操作を行っています。



ペースメーカー

心臓ペースメーカーの埋め込み時や外来でのペースメーカーチェック時にプログラマーを操作し、種々の情報を得て、患者さんの状態や機器本体に異常がないか確認しています。

血液浄化

体内に貯まった老廃物などを排泄あるいは代謝する機能が働かなくなった場合に、各種血液浄化療法(血液透析、血漿交換、血液吸着など)を行います。治療の準備や治療中の患者さんの状態管理・記録、返血といった一連の操作を行っています。

治療のサポート

手術に使用する内視鏡機器および肝臓癌を焼灼する機器を、医師の指示のもと操作を行っています。

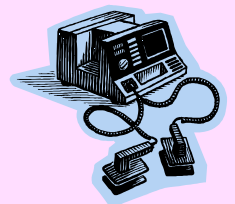
医療機器管理

院内で使用する様々な機器の保守・点検を行い、異常の早期発見・早期修復に努めています。



ME室から患者さんへ！

高度な医療技術の進歩に伴い、医療機器の高度化・複雑化が一層進んでいきます。その中我々臨床工学技士は、機器の安全性、有効性を確保し、患者さんにより良い医療を提供できるよう日々研鑽してまいります。



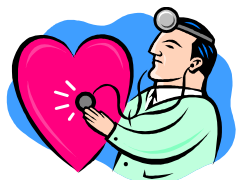
Q. 日ごろ気をつけていなければいけないことを教えてください。

A. 心筋梗塞は突然死となりうる病気であり、カテーテル治療などが適切に受けられたとしても10%程度の死亡率と言われていています。冠動脈の動脈硬化の早期発見、早期治療を行っていくことが重要です。

糖尿病、高血圧、脂質異常症、喫煙歴、脳梗塞歴、両親・兄弟姉妹が狭心症や心筋梗塞を患っている方は狭心症、心筋梗塞のリスクが高いといわれています。上記のようなリスクのある方で、狭心症の症状が疑わしい場合は、心電図を定期的に確認するとともに、心臓の超音波や運動負荷試験を行って、リスク評価することをお勧めします。

詳しくは主治医の先生、もしくは当院循環器内科の医師にご相談ください。

前のページの
続きです！



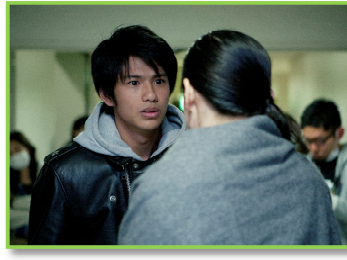


映画『シェリー』の撮影現場になりました。(4月)

4月に当院で撮影が行われた映画『シェリー』が完成しました。尾崎豊さんをテーマとした映画で、20年前の舞台設定と当院のイメージがピッタリだったそうです(?)。上映は今秋から今冬を予定しているそうです。



映画に出演された袴田吉彦さん(整形外科前にて)



同じく出演された森崎ウィンさん(食堂㊟とロビー㊟にて)



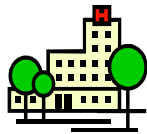
ホームページがリニューアルされました。(8月)

8月28日よりホームページが新しくなりました。各診療科や看護部、診療協力部などの紹介、病院からの新しい医療の情報やお知らせ、また休診/代診のご案内などもご覧になれます。病院広報誌『かし和』も参加し、ホームページ上でもお読みいただけるようになりました。患者さんやそのご家族のみならず、これから医療に携わる職業を目指す方にも充実した内容になっていますので、ぜひ新しくなったホームページ(ホームページアドレス www.kashiwacity-hp.or.jp/ または検索エンジンで『柏市立柏病院』と入力)にアクセスしてみてください。



新しくなった当院のホームページ

当院の取り組み



大学実習生の受け入れ <薬剤科>

平成18年4月より薬学部教育が6年制となり、医療へ貢献する実践力の高い薬剤師の育成を目指して、病院での長期実務実習が必修科目となりました。当院でも年間9名の薬学実習生を受け入れています。

平成24年5月~7月まで実習に来ていた東京理科大学2名と星薬科大学1名の実習生に質問をしました。

Q1 薬剤師を目指そうとしたきっかけは何ですか？

化学が好きで、化学の力で人を助ける薬について学びたいと思い、薬学部に入学したのがきっかけです。(Kさん)

小さいころから医療に関わる仕事に興味があったからです。(Mさん)

Q2 柏市立柏病院の印象をお願いします。

落ち着いた場所に建っていて、地域に密着した頼りになる病院だと思います。(Cさん)

Q3 今回の実習で、一番印象に残ったことは？

入院された患者さんの薬の管理や指導に関わらせていただいたことです。患者さんと関わることで学べたことが多く、また患者さんの前向きな姿勢からパワーをいただく事もありました。(Cさん)

大学で学んできた知識を使って、情報提供できたことです。自分が役に立てていると実感できました。(Kさん)

Q4 先輩薬剤師さんの働きぶりはどうでしたか？

忙しい業務の中で、時に厳しく、いつも真剣に向き合っている姿が印象的でした。お薬の知識も豊富で、自分にとって刺激になりました。(Cさん)

Q5 お世話になった先輩薬剤師さんへ一言お願いします。

全ての薬剤師さんにお世話になりました。今となって考えると、11週間はあっという間でした。それだけ充実していたのかと思います。色々ご迷惑をおかけしました。本当にありがとうございました。(Mさん)

Q6 患者さんへ一言お願いします。

実際に関わらせていただいた皆さま、ありがとうございました。(Cさん)
患者さんの健康のために、もっと薬剤師が関わっていただけたいと思う実習でした。(Mさん)



当院での実習で得たことが、社会に出てから少しでも役立つことを願っています。実習期間中は患者さんにもご協力をお願いすることがございます。何卒ご理解の上、ご協力下さいますようお願い申し上げます。



編集後記

連載インタビューでは、亀谷先生が着任した当時の様子やプライベートに関するお話など、先生を身近に感じる貴重な経験をさせていただきました。この経験を活かし、今後も患者さんにとって、病院を身近に感じていただけるような広報誌づくりに努めていきたいと思っております。

広報委員 飯島 渉(経営情報課)